

せいめい小委員会報告

せいめい望遠鏡の共同利用・共同研究及び研究交流等に関する専門的事項について審議する。
(SACとTACの両方の役割を兼ねる)

共同利用の実施や観測時間の割り当てなどについて要望やご意見ありましたらお願いします。

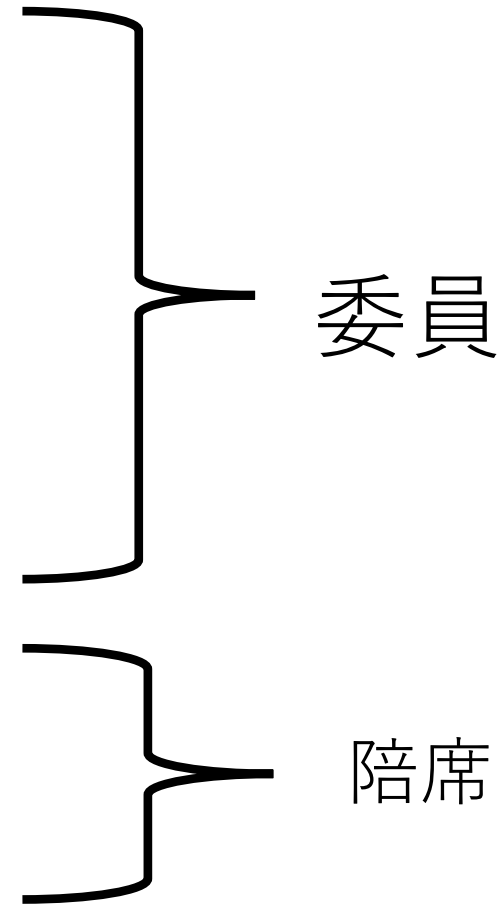
本田 敏志（兵庫県立大）

※今年9月まで 1期2年、通常2期4年

せいめい小委員会

- 岩室史英（京都大）
- 小西美穂子（大分大）
- 福井暁彦（東京大）※
- 本田敏志（兵庫県立大）※
- 前原裕之（国立天文台）※
- 松岡良樹（愛媛大）※
- 太田耕司（京都大）
- 泉浦秀行（国立天文台）
- 田實晃人（国立天文台）

現委員会メンバー



今年10月からの

せいめい小委員会

新委員会メンバー

- 岩室史英（京都大）
- 小西美穂子（大分大）
- 伊藤洋一（兵庫県立大）
- 志達めぐみ（愛媛大）
- 田中雅臣（東北大）
- 鳥羽儀樹（国立天文台ハワイ）
- 太田耕司（京都大）
- 前原裕之（国立天文台）
- 泉浦秀行（国立天文台）
- 田實晃人（国立天文台）

光赤天連の推薦（選挙）より
（入会、投票をお願いします）

委員

陪席

主な議題

- GAOES-RV共同利用への公開
- 共同利用観測時間の割り当て（TAC）
- 補填時間（DDT）
- 共同利用観測時の（人員）体制
- キュー観測

GAOES-RVの審査 (2023.02.14.)

- 系外惑星探査用高分散分光器 (P.I. 佐藤@東工大)
- 群馬県立ぐんま天文台のものをせいめいに移設・改良
観測所のものではない
- 事前に共同利用に必要な項目を装置グループに伝え、エンジニアリング時間などを
利用して得られた調査結果を示してもらった。
 - 3m/s程度の精度達成を確認。
 - 効率などプロポーザルを書くのに必要な情報や窓口の公開。
 - 長期的な安定性は継続して調査する。
- 今後の運用で装置のトラブル（予算確保）などは原則として装置グループ側で行う。
- 制御ソフトはキュー観測にも対応できるようにする。
- GT（共同利用時間から捻出）は2年で10夜。
- 2023BよりPI装置として共同利用で公開。

共同利用装置受け入れ時の審査

- 共同利用に供することを希望する装置については、せいめい小委員会で審査した後に共同利用で公開される。
- 審査では基本的なスペックを提示してもらい、運用や窓口などを確認する。
 - 公開を始めるセメスターの公募案内アナウンスまでに審査を終える必要があるので、審査に必要な項目のデータを取得できるように審査項目は1年前に装置グループに知らせておく。
- **共同利用で公開したい装置は、公開するセメスター開始の1年以上前にせいめい小委員会へ連絡してください。**
 - せいめい望遠鏡への観測装置搭載については、望遠鏡側（京大）との確認が前提（ここで議論するのは共同利用での公開についてのみ）。
- 新しい観測装置の導入はせいめい望遠鏡の競争力強化につながる。

共同利用観測（2023）

- 2023A（2023年1-6月） 65.5夜（エンジニアリング等を除いた時間を京大と分けたもの）
 - クラシカル10件(**55.5**夜)、ToO 15件(クラシカルと両方の2件含む) (**72.5**夜)の応募、
 - クラシカル8件(**51.5**夜)、ToO15件 (**37.5**夜) を採択した。
- 2023B（2023年7-12月） 62.5夜（GAOES-RVのGT3夜含む）
 - クラシカル17件(**110**夜)、ToO 17件(クラシカルと両方の2件含む) (**66.75**夜)の応募、
 - クラシカル12件(**54**夜)、ToO15件 (**44.55**夜) を採択した。

クラシカル観測は前期まで極端な増減はなかったが、23後期で応募が激増
→ GAOES-RVの観測提案（新規ユーザー）が増えた

共同利用観測の状況

- 各課題について、5名のレフェリーによる採点に基づいて夜数の割り当てを決定。
- 継続の課題が多い（特にToO）
- イベント発生の見積もりが難しいものが多く、ToO観測が実行される割合が低い。
 - ToOは天候の良いタイミングでしか行わないため
 - P.I.は京大関係者が多く、京大時間の方が観測を依頼しやすい？
 - ToO観測の実施が増えるとクラシカルの補填時間が無くなる可能性もある。
- GAOES-RVでのモニター観測提案は今後も続くと思われる。
 - 188cm/HIDESが使えると多少緩和されるか？
- 提案書には、京大時間も含めて実施した観測については結果を示して下さい。
- （必要な夜数の見積もりなど）公募書類をよく読んで作成して下さい。
- 審査員のコメントにはなるべく対応して下さい。

（共同利用） 観測の実施について

- 原則は観測提案者が現地で観測を行う。
- ToO観測は現地の観測者に代理で観測してもらうこともできる。
- 観測者確保の問題が大きくなってきた。
- 特に補填時間の観測対応はかなり困難。
 - 急にわずかな時間を割り当てられても対応に困る。
- 学生のみでの観測を可能に（ただし認められた者に限る）。
- 完全（無人）リモート観測の対応（ただし認められた者に限る）。
- キュー観測の実施を進める（透明度、シーイングなど観測条件等の判断は要検討）。
- クラシカルは補填時間込みで時間を割り当てる（ToOによる補填無し）？
 - 採択課題数は減る可能性がある。
- 短期募集のようなものを行うか？

要望・ご意見などをお願いします

- GAOES-RVが共同利用観測で利用可能になった
 - 新規ユーザーの拡大に期待。
 - 新装置の利用可能に伴って競争力が上がった。
 - さらに新装置の共同利用への公開をお願いします。
- 補填時間の割り当てについて
 - 短期間での割り当てが増え、対応が難しくなっている。
 - クラシカル観測には補填時間込みを事前に割り当てで良いか？
 - 採択できる課題の数は減る可能性がある。
 - ToO含め可能な場合はP.I.がリモート観測で対応する？
- キュー観測/自動観測について
 - キュー観測はどこまでを目指すか？
 - まずは条件保証なしのリスクシェアで始めたい。
 - 興味のあるユーザーは試験観測へ積極的に参加してほしい。
- 論文化の見込みについて情報提供をお願いする可能性がある
 - PASJでせいめい特集号の発行を目指す？

